

大雪



校長通信 **道標** - みちしるべ -

第46号 (12月号) 令和6年12月5日

福岡県立小倉商業高等学校 校長 谷川 陽一



倉商110年へ 創れ 新たな歴史と伝統 - 商業教育の「標(しるべ)」を築く -

二十四節気：12月7日(土) 大雪(たいせつ)

雪がいよいよ降り積もっていく時期です。二十四節気は「立春」から始まり「大寒」で一年が終わります。

新紙幣から見る現代社会 - 社会の転機から「商業の見方・考え方」を働かせること -

12月になりました。1年の終わりに今年の出来事から皆さんが普段学んでいる商業科目の視点から「商業の見方・考え方」を働かせて考えてみましょう。

7月3日に紙幣が平成16年(2004年)から20年振りに変わりました。新紙幣の人物肖像には一万円札に渋沢栄一、五千円札に津田梅子、千円札に北里柴三郎の肖像が新たに採用されました。渋沢栄一は日本ではじめての銀行など約500ものさまざまな会社を設立・育成し、日本の経済発展の基礎を固めました。津田梅子は、女性として日本で最初の海外留学生の一人で、米国から帰国後、今の津田塾大学を設立し、女性の教育に力を注ぎました。北里柴三郎は、伝染病研究所(今の東京大学医科学研究所)や北里大学を設立するなど、「近代日本医学の父」と呼ばれた人です。

「経済」の渋沢・「男女共同参画社会の先駆者」の津田・「近代日本医学の父」細菌学者の北里。これらの偉大な先人達は、まさに現代社会を導く人物であると言えます。

さて、一万円札に採用された渋沢栄一は令和3年に大河ドラマのモデルとなり、その生涯について知られるようになりました。27歳の時、第15代将軍となった徳川慶喜の実弟、徳川昭武に随行し、パリ万国博覧会を見学するほか、欧州諸国を訪問しました。その際、当時、スエズ運河が開削中でした。現在、スエズ運河は東洋と西洋を繋ぐ重要な交通の要衝であり、グローバルな経済社会にはなくてはならないものとなっています。渋沢は開削事業を目の当たりにし、このような運河の大工事をフランスの私企業が手がけていることに驚きます。あわせて、株式会社という仕組みで民間から資金を集め運営していることを知り更に驚きます。このような事業ができるということに非常に感銘を受け、株式会社というものをしっかり勉強しようと決意します。渋沢は「商業の見方・考え方」を働かせ、鉄道債、社債、債権の運用、そこから株式会社、銀行業務を学び、万国博覧会ではモノの競争を学んだのです。そして、企業は公益のためにあるという『合本主義(がっぼんしゅぎ)』を唱えました。そして、道徳と利潤とを調和させ、商業人が歩むべき道を示した『論語と算盤』を著しました。算盤とは商業(ビジネス)のことです。公益(社会全体の利益)を求める論語(道徳)と企業の利潤を求める算盤(商業)とを結び付けたものです。まさに「商業の見方・考え方」を働かせたものでした。このことを「道徳経済合一」と渋沢は言いました。

商業の目的は社会貢献や世の中の幸せを求め、同時に利益をあげること。このような理念で商業(ビジネス)に励みなさい。経済的な裏付けがなければ社会は発展しない。「道徳を持って商業に励むことにより、世の中を幸せにできる」と考えたのです。

このことは、商業を学ぶ生徒の皆さんにとって最も大切にしてほしいことです。皆さんが、高校卒業後や大学等の卒業後に、社会において商業で学んだことを誇りに、その「見方・考え方」を働かせ、自己実現はもとより、世の中の幸せのために活躍することを願っています。



新紙幣の偉人の本は図書館の「校長先生おすすめの本」コーナーにあります。